

## 社会福祉法人誠和 事業報告

### ▶ 事業報告概要

当年度は、第7期介護保険改正の3年目ということもあり、2年間の取組みをより一層進める1年となりました。昨年3月に岡山県で最初の新型コロナウイルス感染症が発生し、4月には緊急事態宣言が発令されました。アルコール消毒液やマスクやペーパーなど様々な衛生用品が高騰化し、納品も不定期的な状況が続き、感染対策用品の確保及び管理業務も増加しました。6月には新たな日常生活様式が示されましたが、7月には第2波の感染拡大、恒例のあじさい納涼夏祭りも縮小し、各事業所にて行うこととなりました。

スタッフには、通常業務に加え三密回避、手指消毒、マスクの着用、換気の徹底を図り、毎日の健康管理も今まで以上に実施してもらいうこととなりました。こうした中で、感染対策としてZOOM会議や研修、LINEWORKS、Googleによるスケジュールやデータ管理、内部研修の動画配信(YouTube)や書面による内部研修などにも取り組んでまいりました。結果、紙媒体や会議時間の削減などの業務効率化・支出削減にも繋がりました。

その後、全国的にも感染拡大は続き、10月には第3波が到来しました。キャンドルナイトや桜まつりなどは、疲弊したスタッフや、外出や家族への面会に制限のかかる利用者にとっても、心の癒しとなる時間となりました。12月19日には当法人においても家族の面会禁止を行い、オンライン面会への変更となり、現在も継続されているところであります。

国からの新型コロナウイルス感染症に対する助成金等の支給により、感染対策を講じてまいりましたが、このことに伴う事務負担の増加、年度末には新型コロナワクチン接種にむけた台帳整理や家族への同意の確認なども大きな負担となりました。そして、令和3年度の介護保険改正に向けた準備などもかさなる大変な1年でありました。

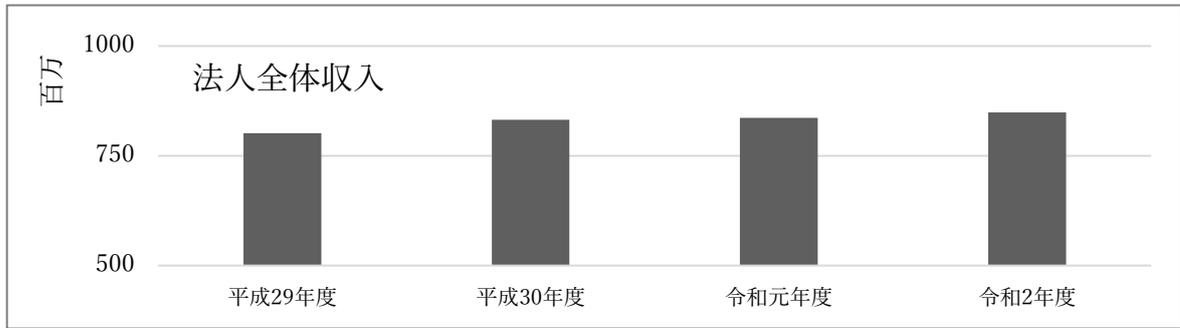
スタッフ一人ひとりの取組の結果、最終的には前年度比12百万円増となっております。

新型コロナウイルス感染症や災害などの多い昨今の状況から、これからのサービス提供体制の在り方などが大きく変わった1年でありました。こうした非常災害時に対応ができる体制づくりは、スタッフ一人ひとりの協力なしではできないこと、そして組織力が問われることを痛感した1年となりました。

### ▶ 重点取り組み事項

ガバナンスの強化とICT (Information and Communication Technology) の活用により組織全体の生産性の向上と人員不足の解消に努め、職員の働きやすい環境を整えることとする。

- 1) 人材不足による人員管理体制の強化とガバナンスの強化に努め、加算取得により収益を増やす
- 2) 人材不足による事務作業の増加などから、ICT、介護助手を活用し、業務省力化、業務プロセスの効率化を図り、介護職員等の負担を軽減し、働きやすい環境を整える
- 3) ICT化によるコモディティ化の先を見据えた将来的なサービスの高付加価値の検討に努める。
- 4) EPA (Economic Partnership Agreement) 介護福祉士候補生だけでなく介護技能実習生の受け入れを図り、今迄のノウハウを活かしながら外国人労働者の受け入れ体制の整備を行う。



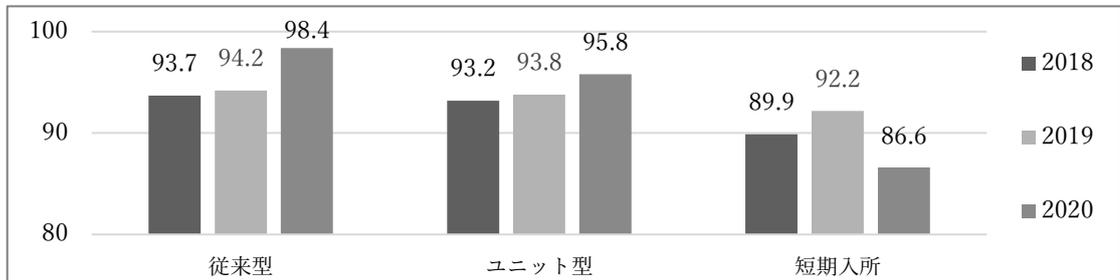
➤ 事業所別取り組み事項

1. 社会福祉事業

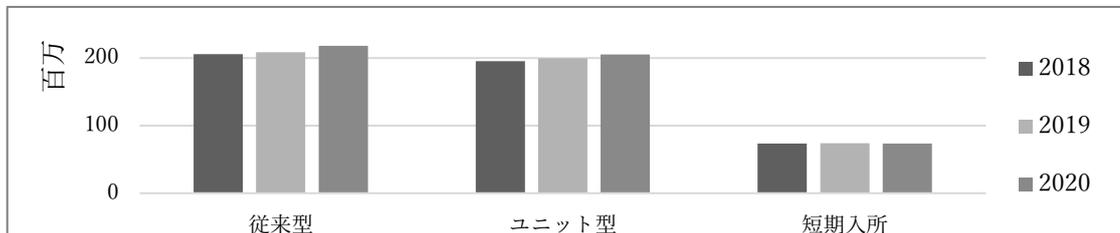
① 特別養護老人ホームあじさいのおか牛窓 (従来型・ユニット型・短期入所)

新型コロナウイルス感染症の影響にて、様々な行事等が縮小となり、家族の面会も制限がかかる中、今まで取り組んできたIoT (Internet of Things) 化によりオンライン面会や会議などに対応することができました。人員不足や感染症対策によるスタッフの負担軽減のため、業務プロセスの効率化、多職種協働、専門職以外 (介護助手等) の人材確保にも努めてまいりました。また、特養待機者の対応、そして感染症の影響にて短期入所利用にも制限がかかる中、特養特例枠を活用することで、全体的な稼働率の向上やスタッフの短期入所対応の解消にも繋がることとなりました。介護助手の充足や多職種連携が、介護職員の人員不足の解消の一助になったと考えております。新型コロナウイルス感染症の影響で入国が延期されていた技能実習生も1月には採用となりましたが、言葉の壁の問題もあり今後の課題ともなっております。感染症対策は、感染拡大を受け、より徹底した対応が必要であると考えております。

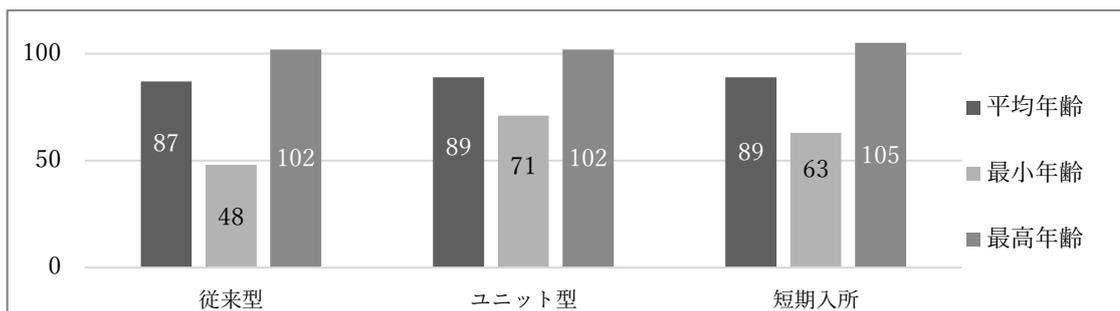
● 稼働率 (従来型・ユニット型・短期入所)



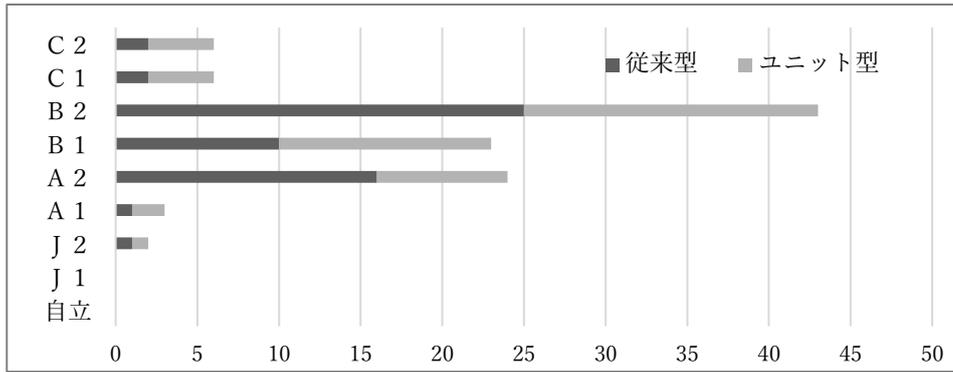
● 収入 (従来型・ユニット型・短期入所)



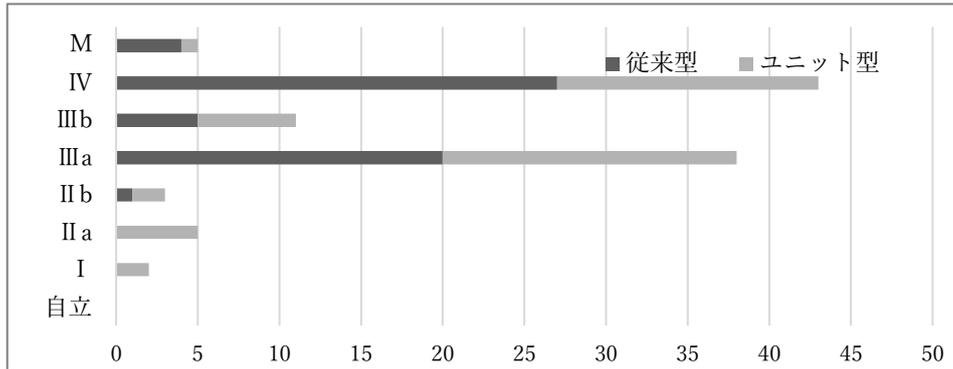
● 年齢 (従来型・ユニット型・短期入所)



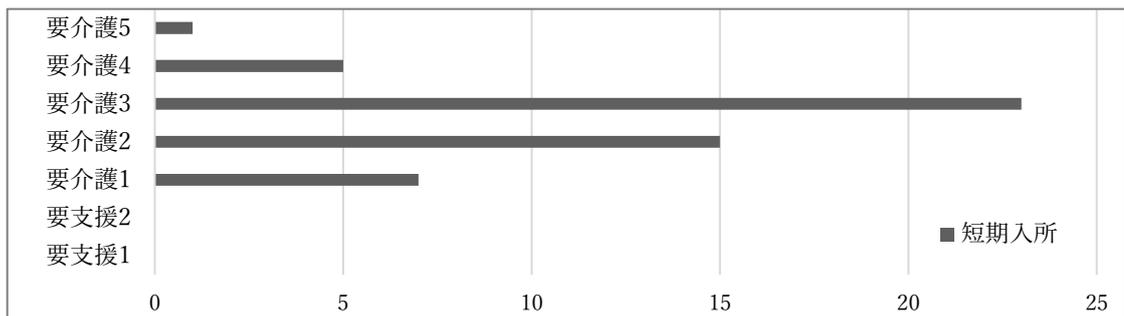
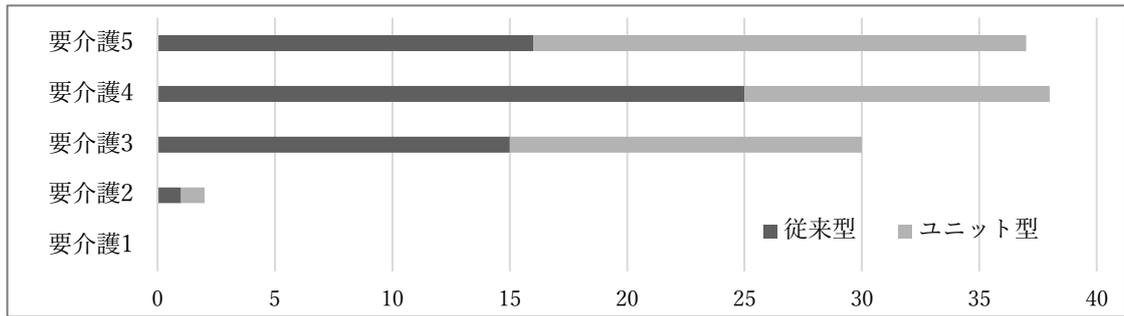
● 障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）



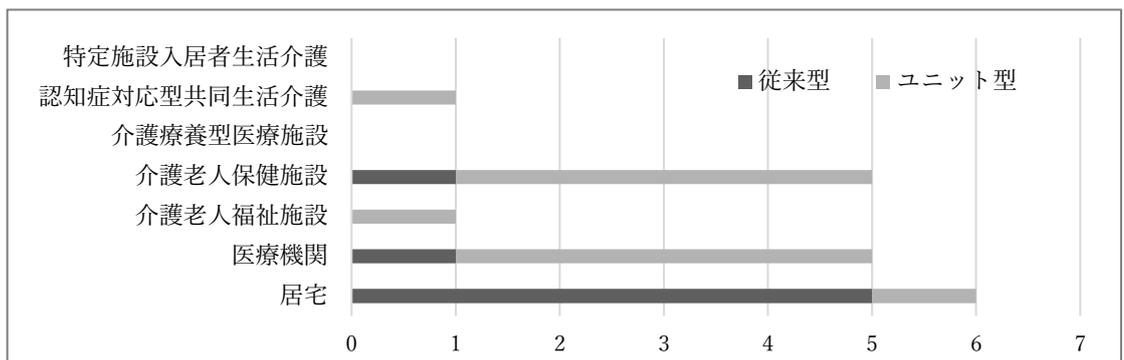
● 認知症高齢者の日常生活自立度



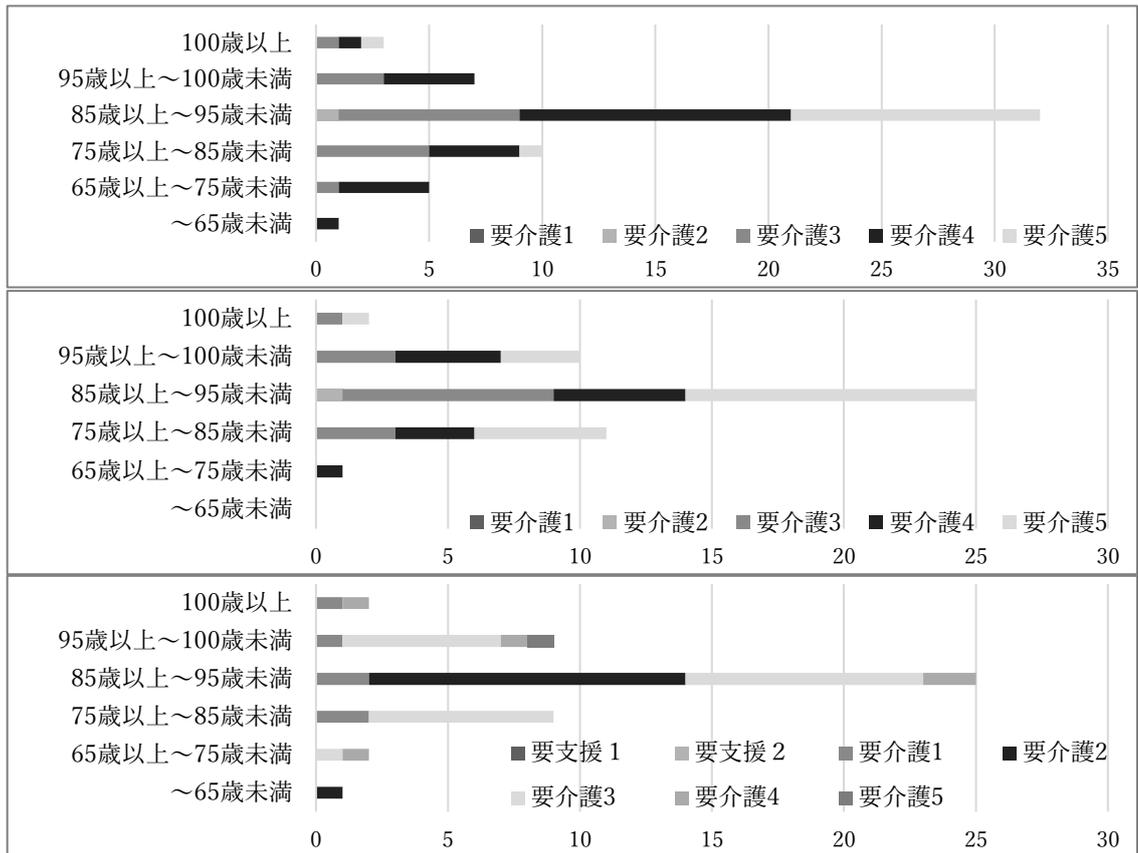
● 介護区分別 延利用者数（従来型・ユニット型 [上]・短期入所 [下]）



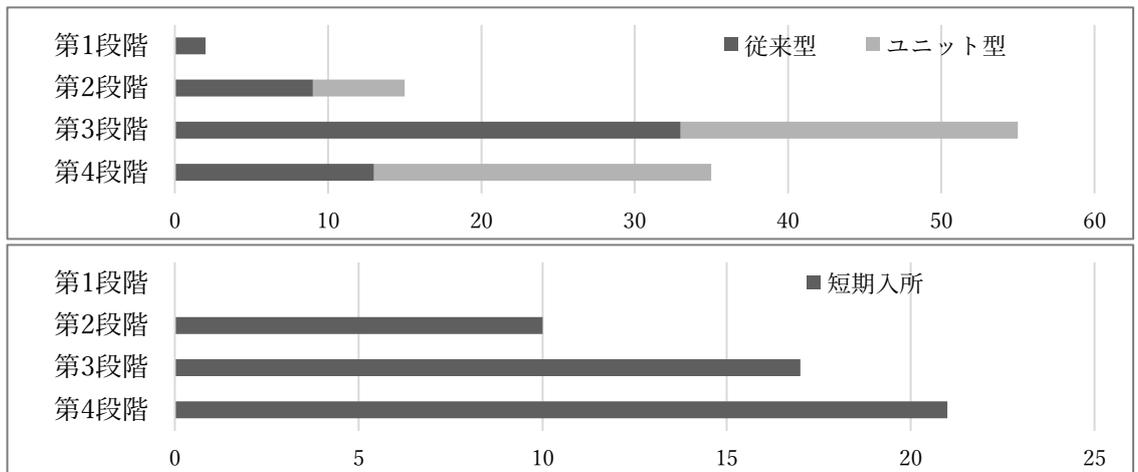
● 新規入所者入所前状況（従来型・ユニット型）



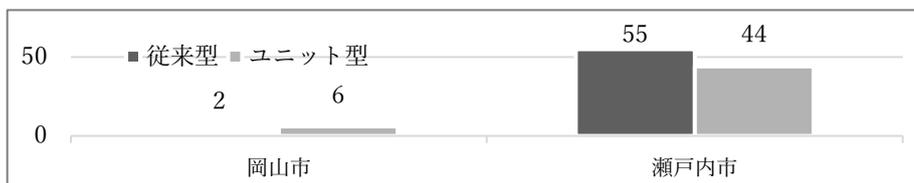
● 年齢別 要介護状態区分別 利用者数 (従来型 [上]・ユニット型 [中]・短期入所 [下])



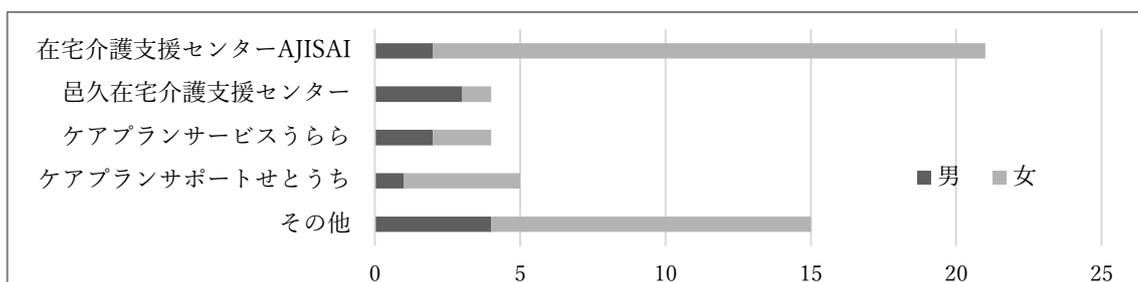
● 負担限度額 (従来型・ユニット型 [上] 短期入所 [下])



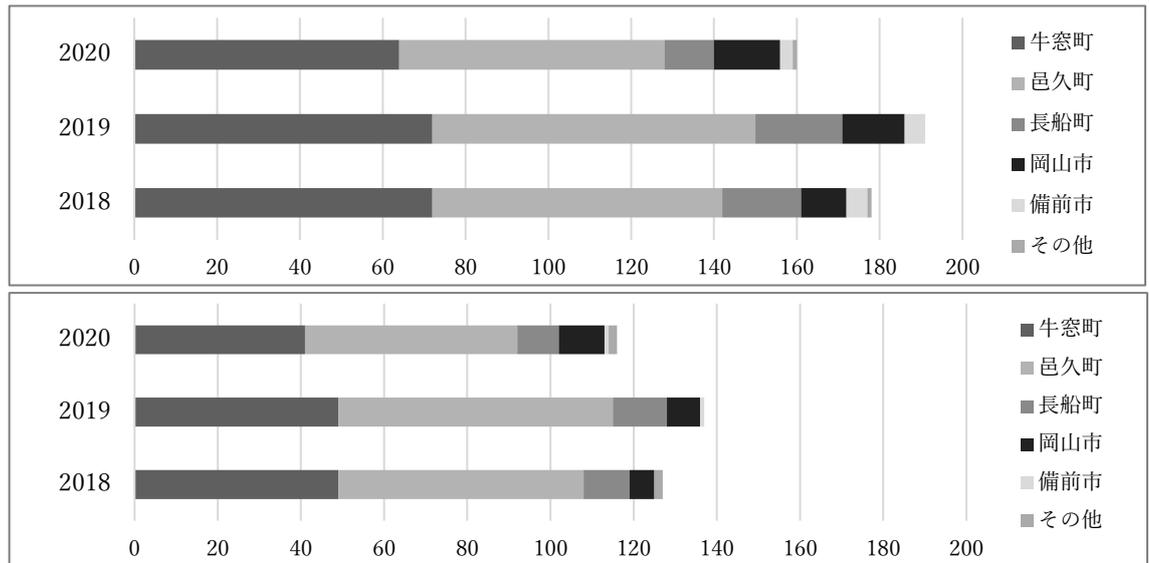
● 入所者保険者内訳 (従来型・ユニット型)



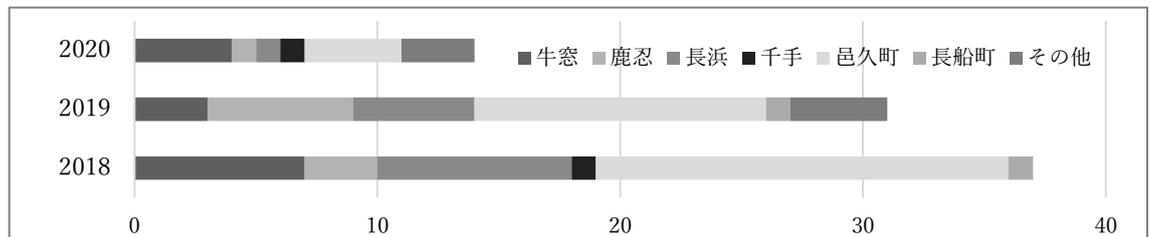
● 居宅介護支援事業所別 利用者数 (短期入所)



● 地区別 待機者数（従来型 [上]・ユニット型 [下]）



● 地区別 新規利用者数（短期入所）

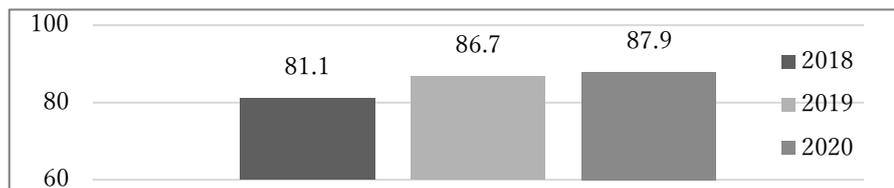


② ケアハウス紫陽花

新型コロナウイルス感染症の影響にて、外出やレクリエーションなどの活動や面会も制限がかかり、サービス提供の変更を余儀なくされてきました。こうした中で、本来自立した利用者が入居できる施設ではありますが、利用者の重度化に伴いデイサービス等在宅サービス利用者も増えております。一人ひとりに適したサービス提供ができるようにメニューを増やすことで、利用者の自己決定が促せるように取り組んでまいりました。

感染症対策をしたサービス提供方法の工夫や、ご家族や地域住民に対する情報発信や情報収集をしていくことが課題となっております。

● 稼働率



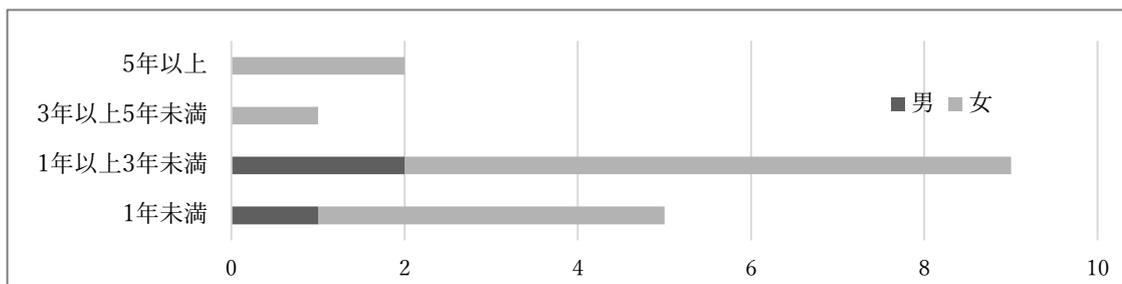
● 収入



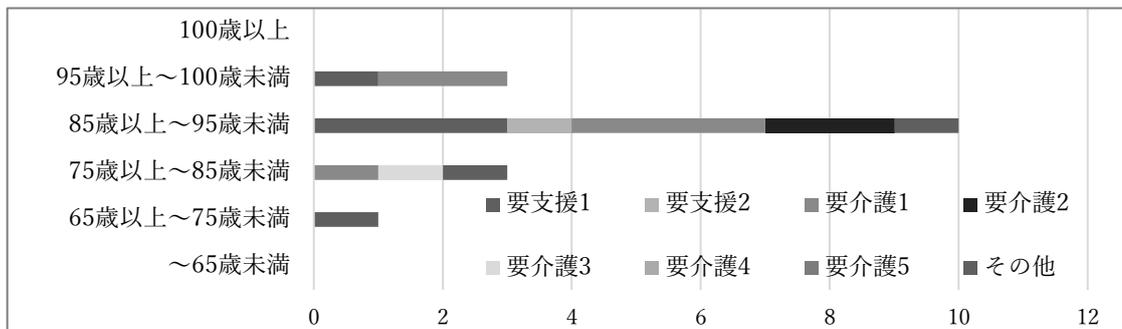
● 年齢



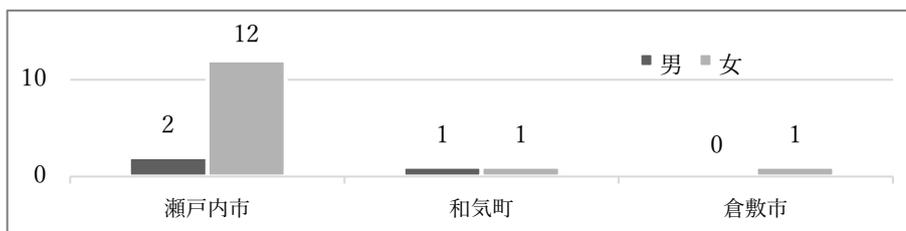
- 入所期間



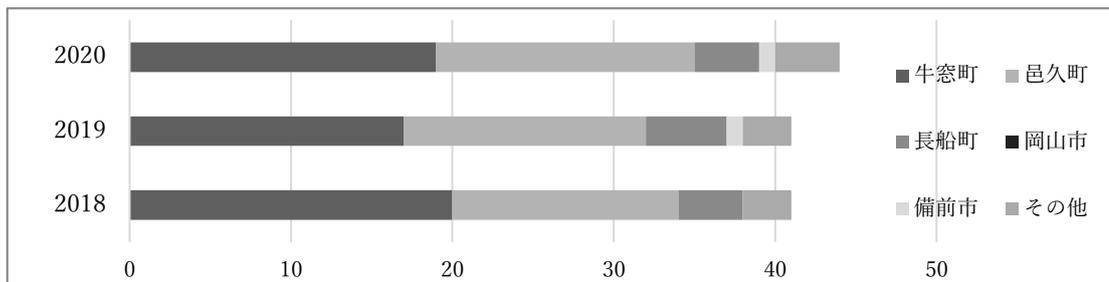
- 年齢別 要介護状態区分別 利用者数



- 入居者保険者内訳



- 地区別 待機者数

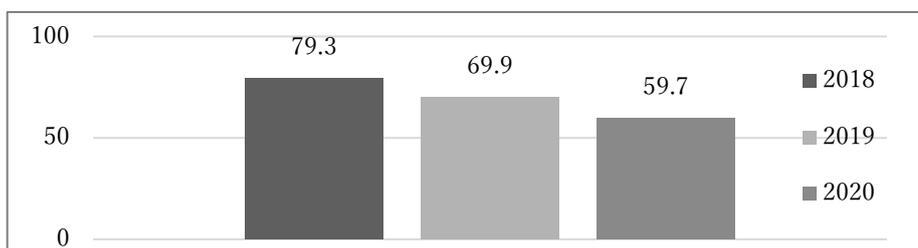


③ デイサービスセンターあじさい（通所介護・介護予防・日常生活支援総合事業）

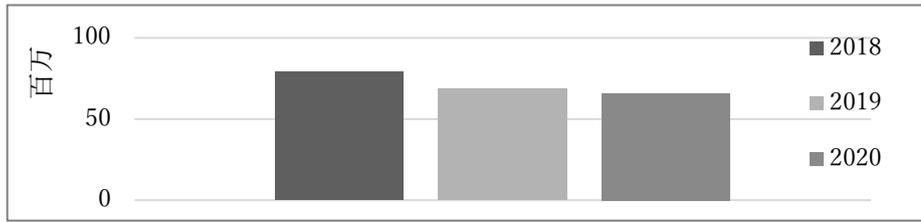
介護職員不足により祝日の閉鎖（祝日が続く際には随時開所）や新型コロナウイルス感染症の影響の中、新規利用者の確保に取り組めたことや感染対策を講じてきたことが収入への影響を最小限にできております。IoT化は、介護職員等の事務作業の負担軽減や超過勤務の削減にも繋がっており、働きやすい職場づくりには取り組めたと考えております。

介護福祉士比率の向上と平日の稼働率向上、そして事業所の特色あるサービス内容等のホームページ等を活用したPR活動が課題となっております。

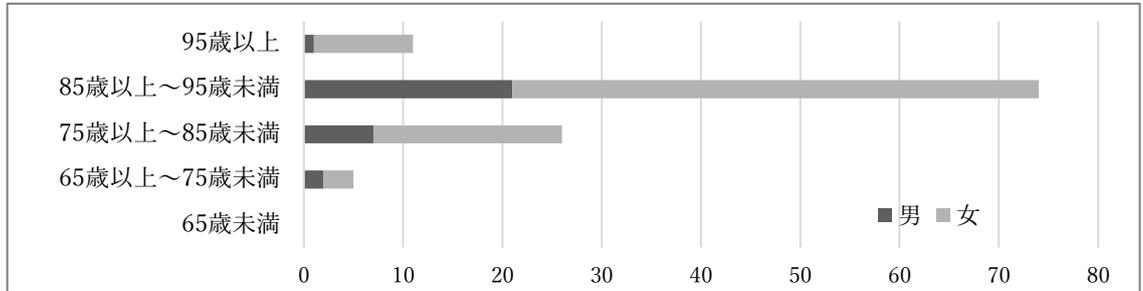
- 稼働率



● 収入



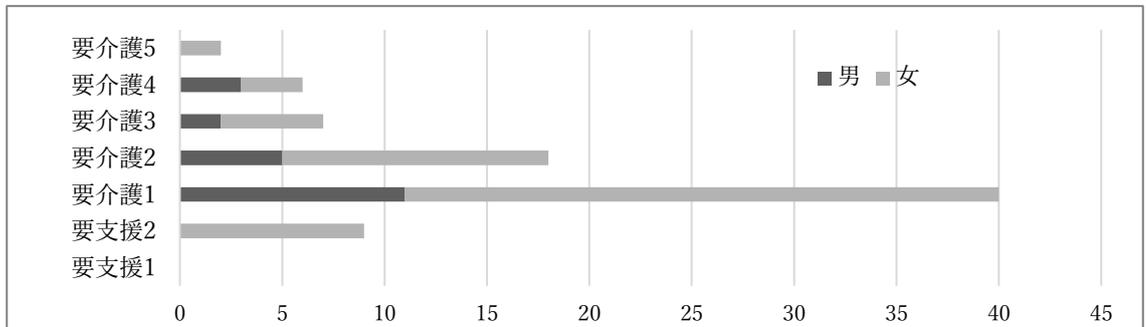
● 年齢別 利用者数



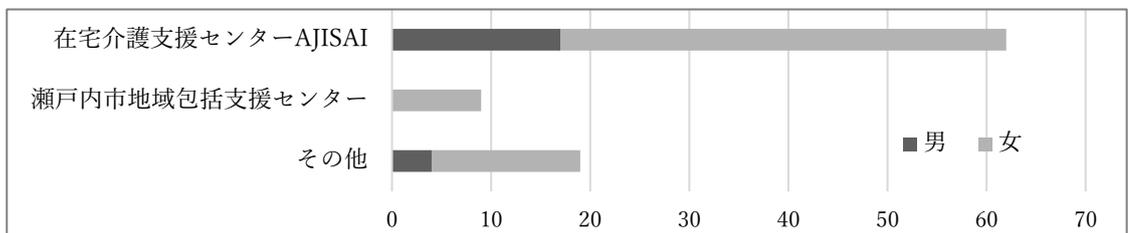
● 年齢



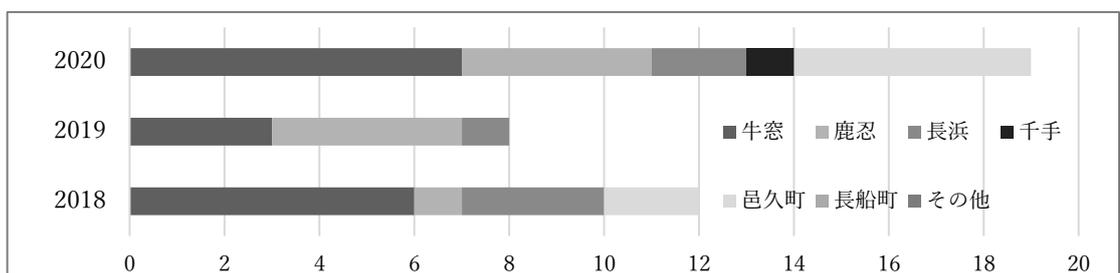
● 要介護状態区分別 利用者数



● 居宅介護支援事業所別 利用者数



● 地区別 新規利用者数

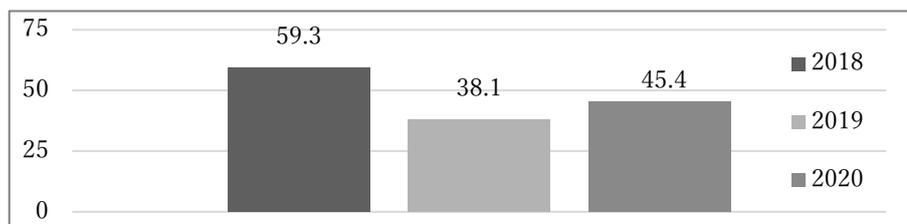


#### ④ デイホームあじさい（認知症対応型通所介護）

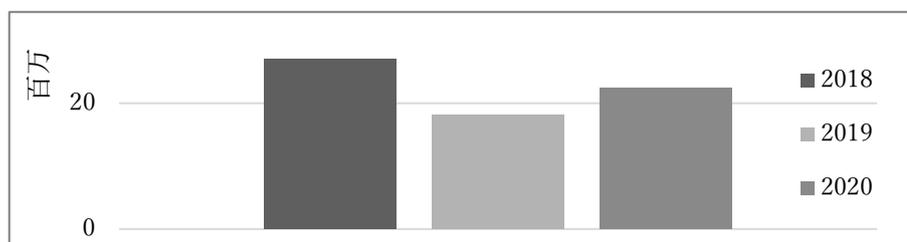
デイサービス同様に、介護人材不足により祝日の閉鎖（祝日が続く際には随時開所）や新型コロナウイルス感染症の影響の中、新規利用者の確保に取り組めたことや感染対策を講じてきたことが、若干の収入増に繋がりました。IoT化は、介護職員等の事務作業の負担軽減や超過勤務の削減にも繋がり、働きやすい職場づくりには取り組めたと考えております。

課題としましては、入所施設が多いことにより家庭での介護期間が短いため、新規利用者の継続確保が課題となっております。施設への出入りが難しいため、施設情報の提供方法の検討が必要となってきております。

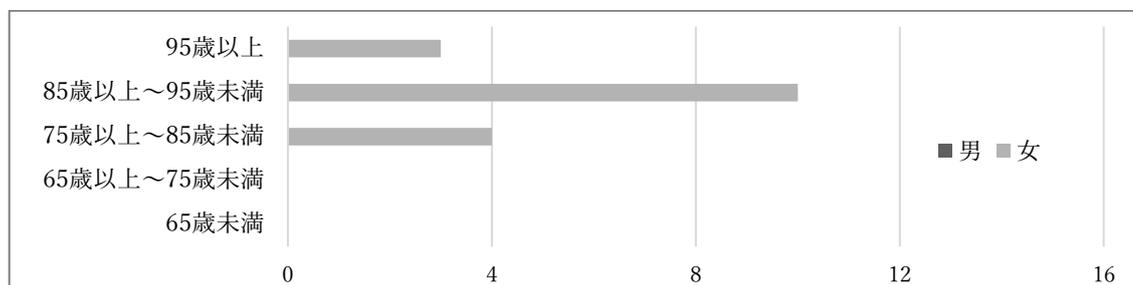
##### ● 稼働率



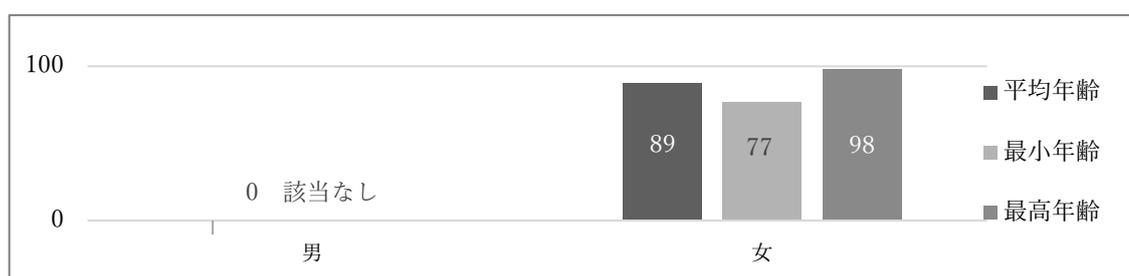
##### ● 収入



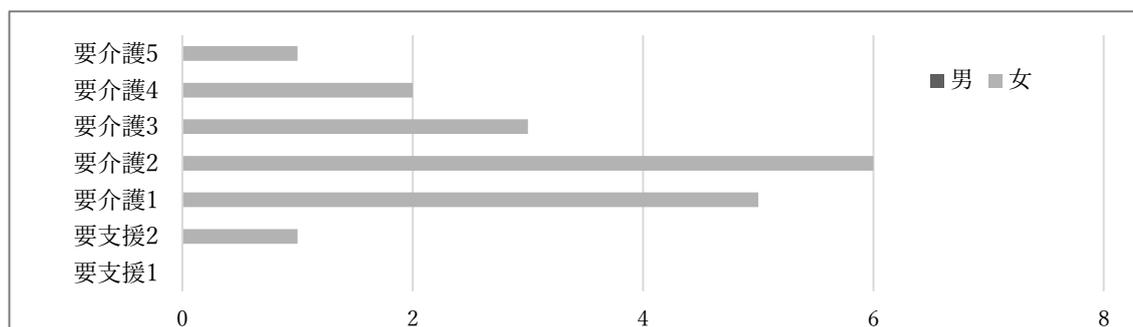
##### ● 年齢別 利用者数



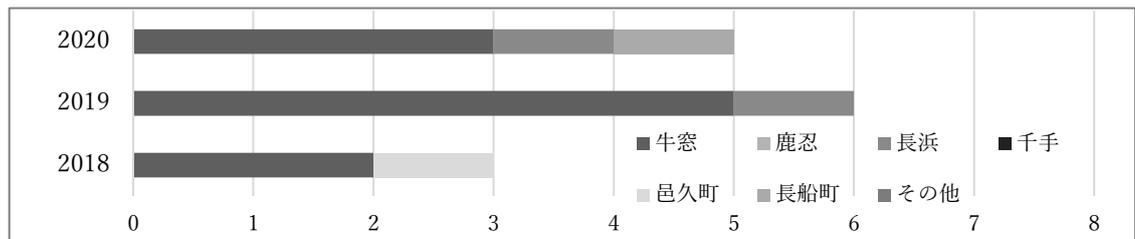
##### ● 年齢



##### ● 要介護状態区分別 利用者数



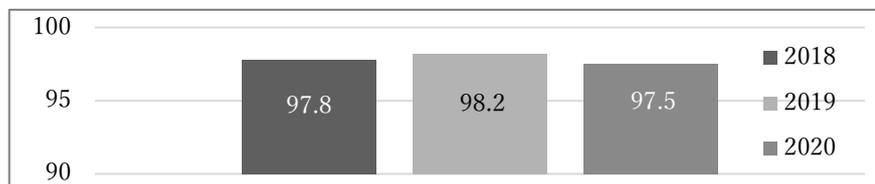
● 地区別 新規利用者数



⑤ グループホームあじさい

介護人材不足によるスタッフの負担軽減のため、IoT 化による業務プロセスの効率化に努めてきたことが、新型コロナウイルス感染症の影響を最小限とし、オンライン会議等にもスムーズな対応ができることとなりました。医療連携も行えており、利用者の健康管理も安定し、入所期間の長期化にも繋がっていると考えております。課題としましては、在宅生活の継続の視点からも、今まで住み慣れた生活の様子のヒアリングをより一層していくことであると考えております。

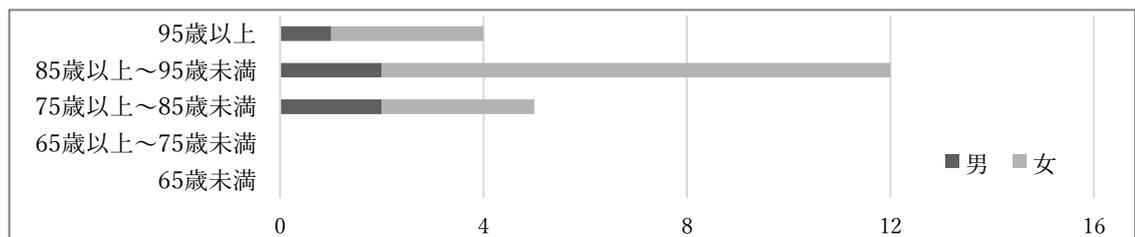
● 稼働率



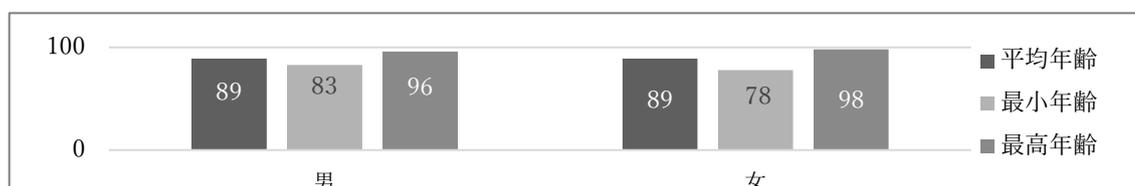
● 収入



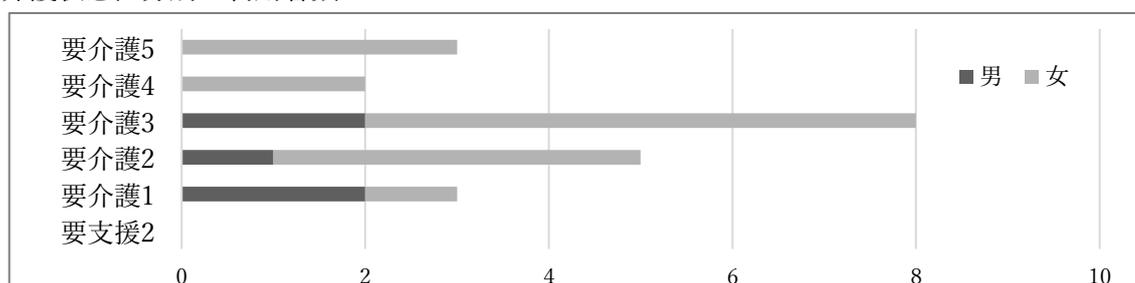
● 年齢別 利用者数



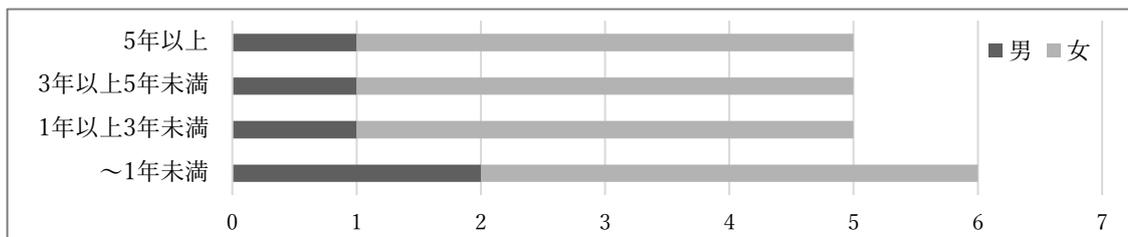
● 年齢



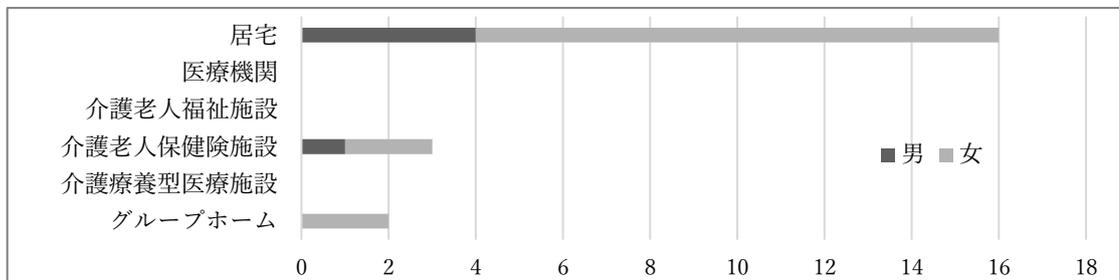
● 要介護状態区分別 利用者数



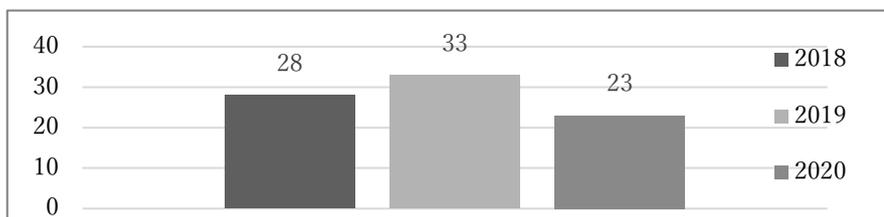
- 入所期間



- 入所前状況



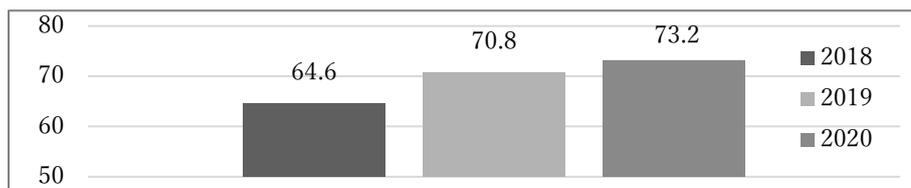
- 待機者数



⑥ ヘルパーステーションあじさい（訪問介護・介護予防・日常生活支援総合事業）

在宅利用者の軽度化・地域における入所施設の増加などから利用率の向上が難しい事業体となっております。こうした中でも利用者数は横ばいの状況であります。利用者一人当たりの利用頻度の増加が収入増に繋がっております。IoTの活用により、業務省力化、業務プロセスの効率化が図れ、介護職員等の負担軽減に繋がっていると考えます。課題としましては、最少人員の配置のため、訪問介護員の確保が課題となっております。

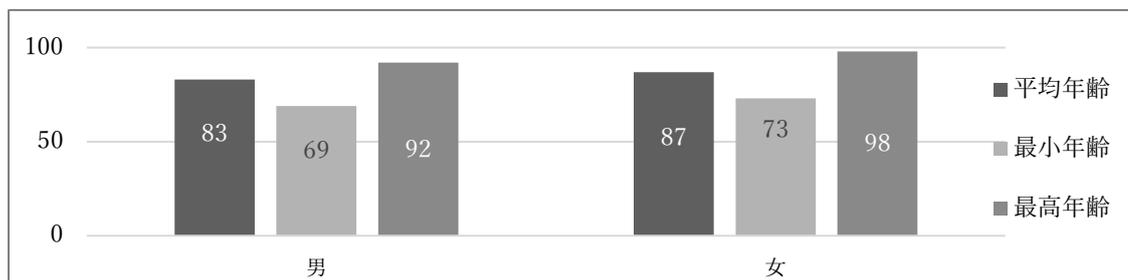
- 稼働率



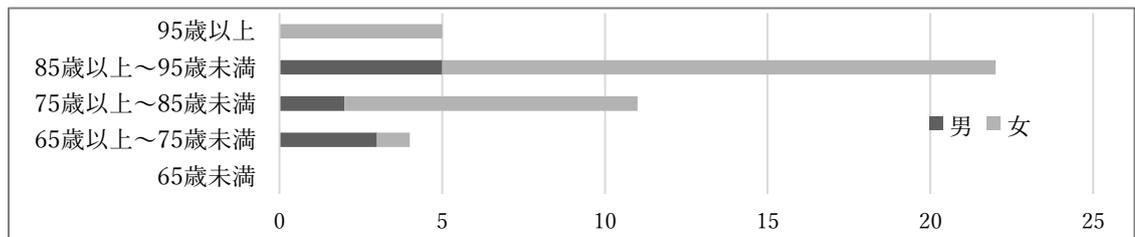
- 収入



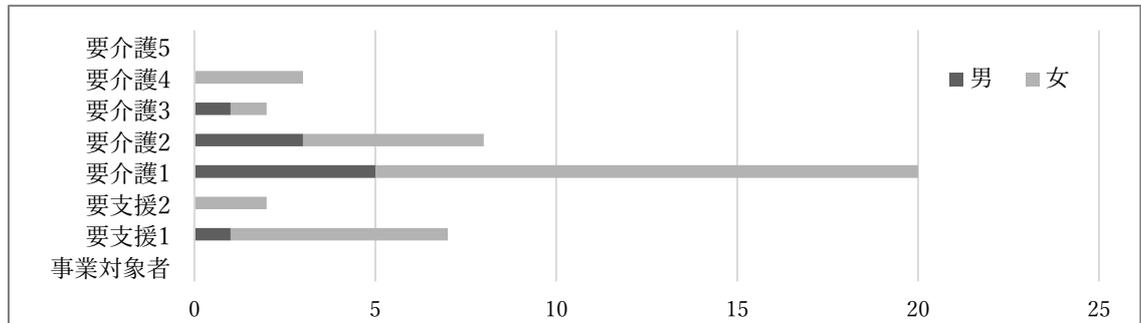
- 年齢



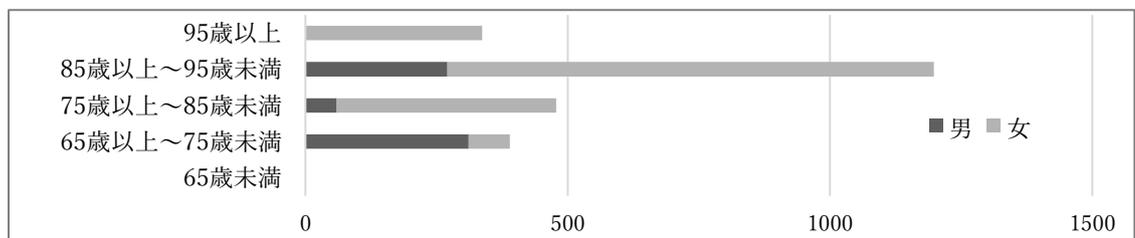
● 年齢別 利用者数



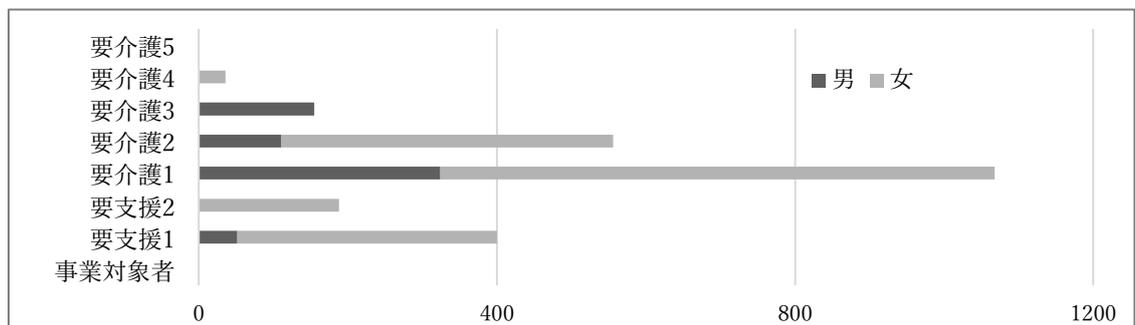
● 要介護状態区分別 利用者数



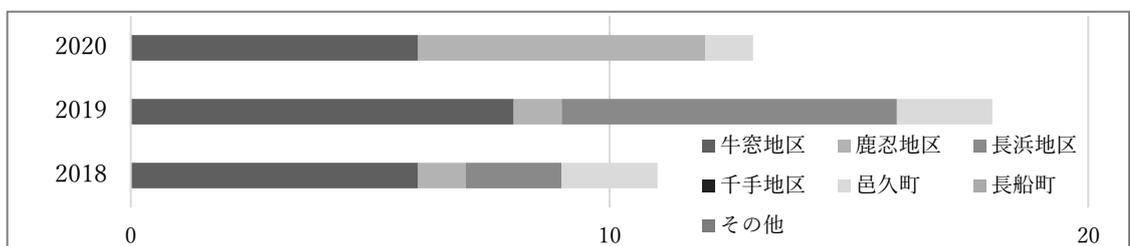
● 年齢別 訪問回数



● 要介護状態区分別 訪問回数



● 地区別 新規利用者数

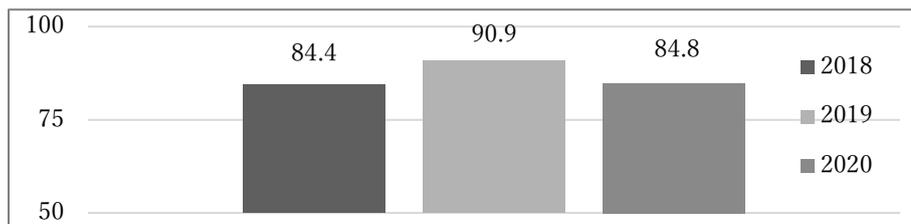


⑦ グレースケアあじさい

新型コロナウイルス感染症の影響にて、様々なサービス提供に支障をきたし、感染対策を講じたサービス提供に努めてまいりました。瀬戸市内内の小規模多機能型事業所は、県内でも多い市であることや地域密着型サービスのため、市町村住民が要件であることも利用者の確保が厳しい状況となっております。利用者の自己決定を促し、その人らしい生活の支援・満足度の向上に努めてまいりました。こうした状況下においても、特色あるサービス内容を工夫し、事業所情報を介護支援専門員や関係事業所に情報提供することで、新規利用者の確保をしていくことが課

題となっております。

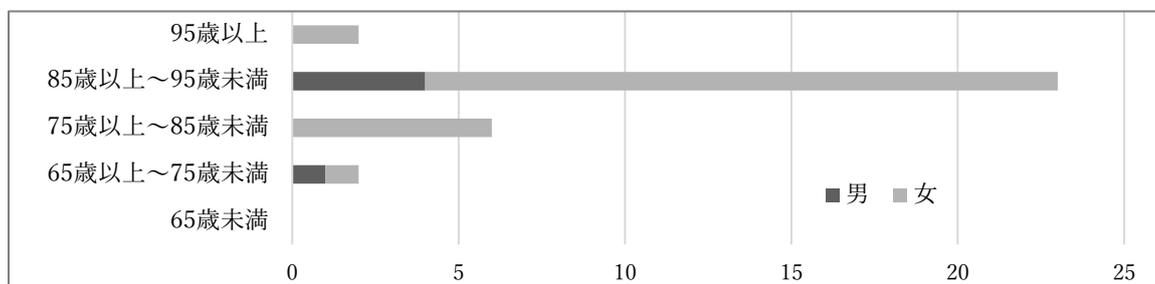
● 稼働率



● 収入



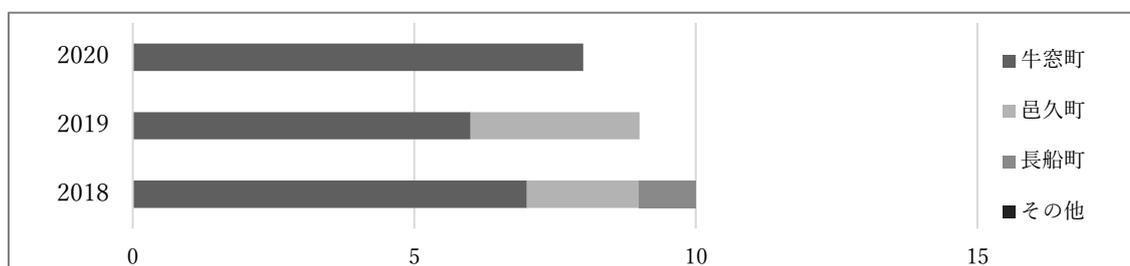
● 年齢



● 要介護状態区分別 利用者数



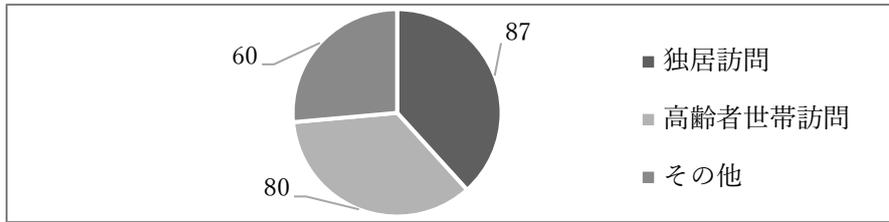
● 地区別 新規利用者数



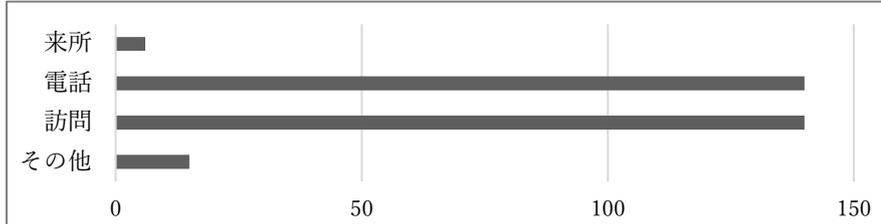
⑧ 在宅介護支援センターAJISAI (地域包括支援センターランチ)

新型コロナウイルス感染症の影響にて、地域活動の多くが中止となり、地域でのサロン活動も同様でありました。地域の民生児童委員をはじめ地域での活動をされている方の活動が、制されており、必要なサービスを住民から把握することが難しい1年となりました。当事業の活動は、法人全体のPRにもなっているため、引き続き多くの情報発信と情報収集をしていくことが重要であると考えられます。

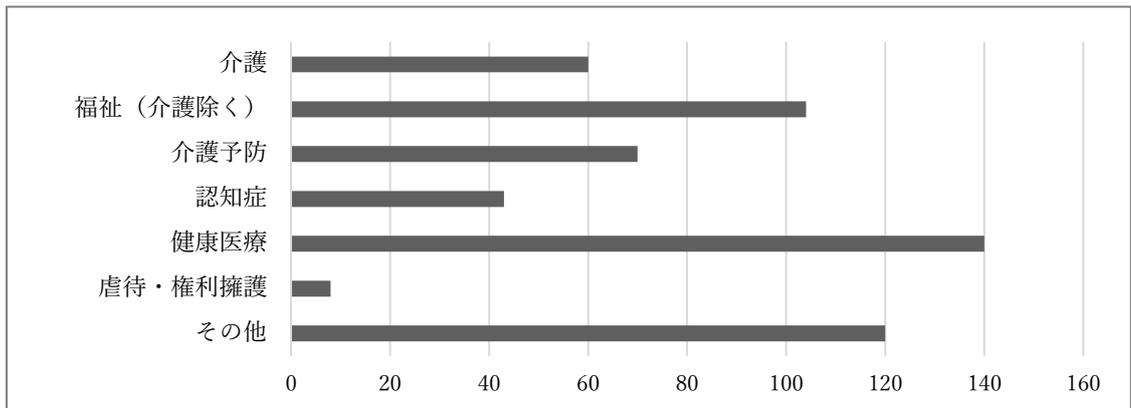
● 実態把握



● 相談形態内訳



● 相談内容内訳



● 展示物無料貸出

品目	件数	貸出理由
介助用車椅子	3	受診・外出
自走用車椅子	8	外出
ロフトランドクラッチ	1	外出

2. 公益事業

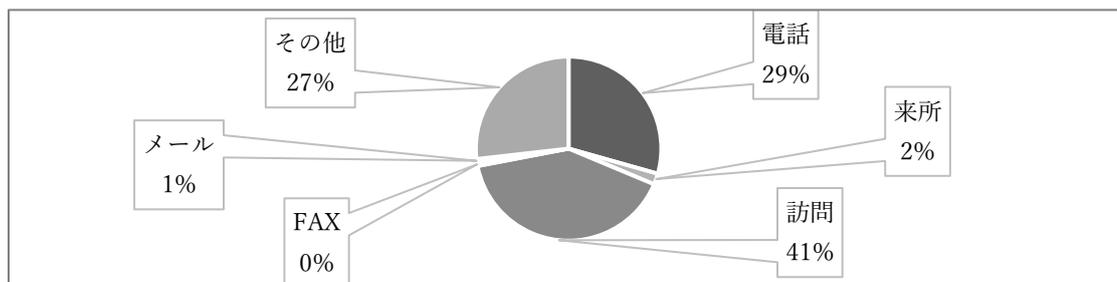
① 在宅介護支援センターAJISAI（あじさい）（居宅介護支援事業所）

新型コロナウイルス感染症の影響にて、自宅や医療機関等への訪問活動を中心としている事業所にとって、業務の遂行が難しい1年となりました。引き続き感染対策を適切に行うと同時に、ケアマネジメントが適正に行われるように努めてまいりました。介護保険法の理念に沿い利用者本位のケアマネジメントに努めていくことが重要となっております。電子カルテを活用し、業務省力化、業務プロセスの効率化を図り、介護支援専門員の事務負担軽減に努めてまいりました。

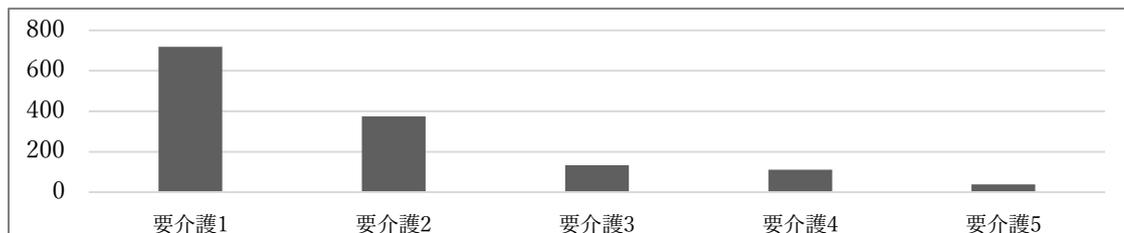
● 収入



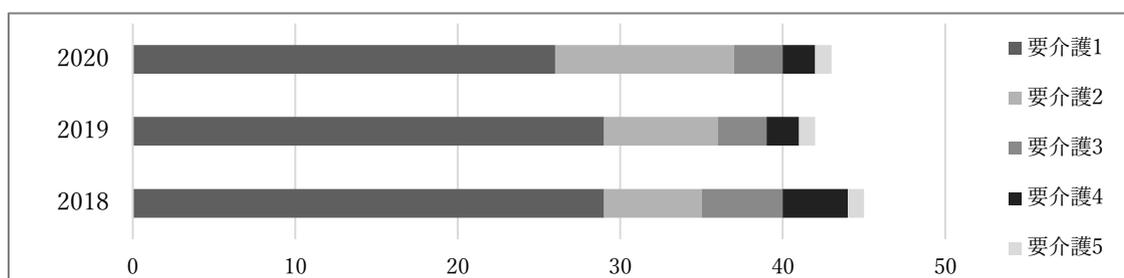
● 支援経過



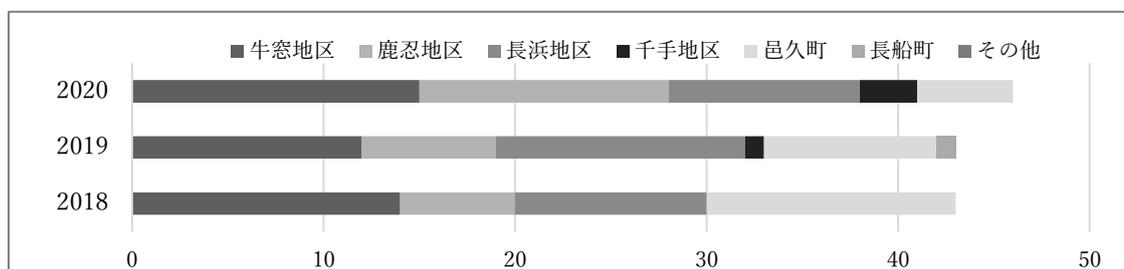
● 要介護状態区分別 利用者数



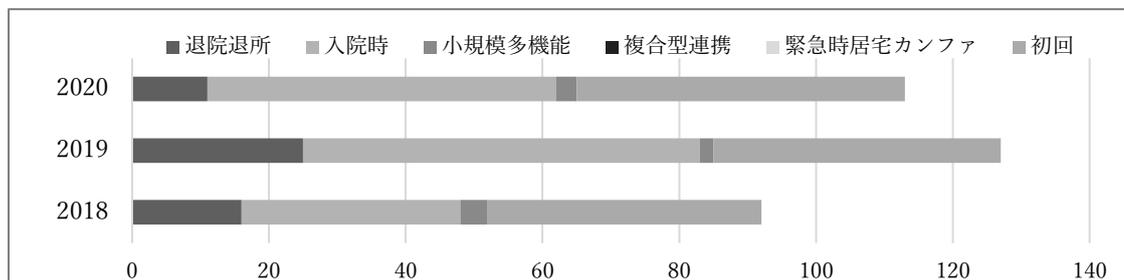
● 要介護認定区分別 新規利用者数 (重複あり)



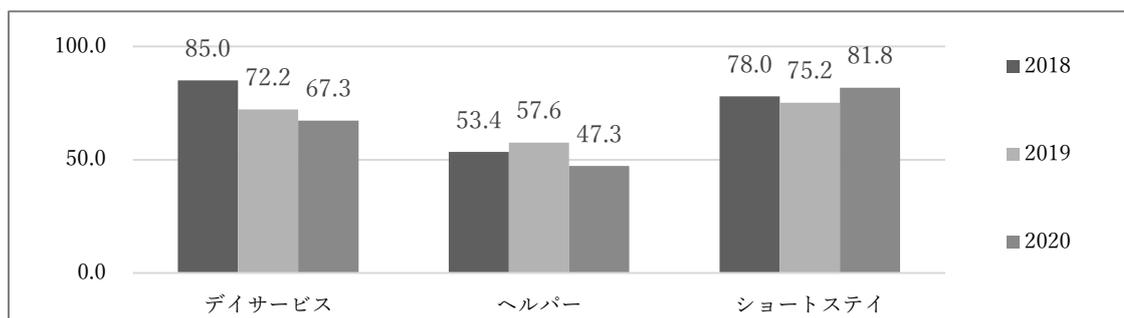
● 地区別 新規利用者数



● 各種加算取得内訳



● 法人内事業所 特定事業集中減算適用率



## ② 福祉移送サービスあじさい（福祉有償運送事業）

利用料対象者を限定させたことにより収入の減少とはなりましたが、交通の便の悪い牛窓地区は、移送のニーズは高い状況が続いております。引き続き感染対策を徹底して、社会参加の一助として利用いただけるように努めていくことが必要であると考えられます。

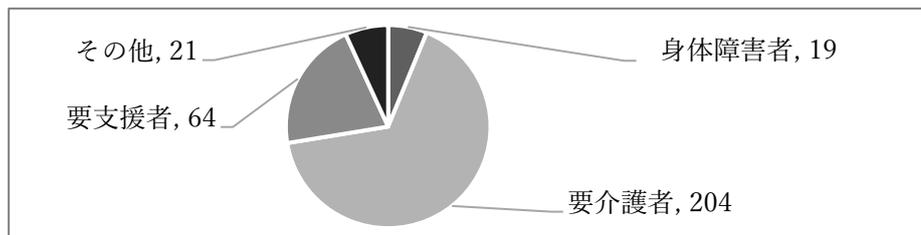
### ● 収入



### ● 利用用途



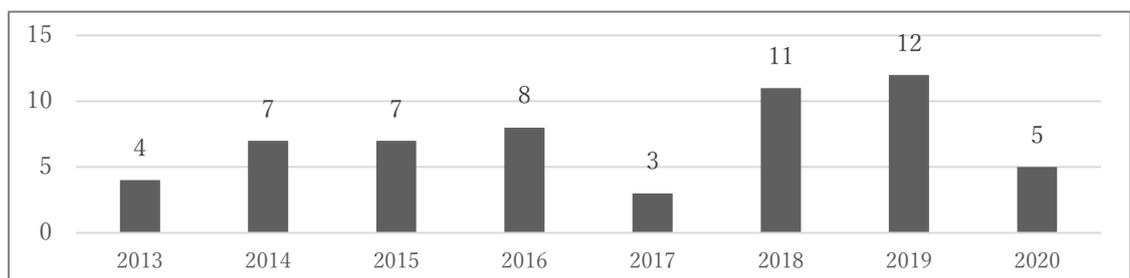
### ● 区分別 利用者数



## ③ 介護職員初任者研修事業

平成 25 年より開講し、毎年少人数ではありますが将来の人材確保と地域福祉の向上に努めてまいりました。瀬戸内市の後援をうけることで公民館等にも広報の協力をいただきました。当年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大が始まった 5 月に開講したことから、開講前のキャンセルなどもあり、受講生の確保が難しい 1 年となりました。開講にあたっては、感染対策を徹底し、受講生も安心した受講ができるよう講義・演習に努めていくことが重要であると考えております。

### ● 受講生数

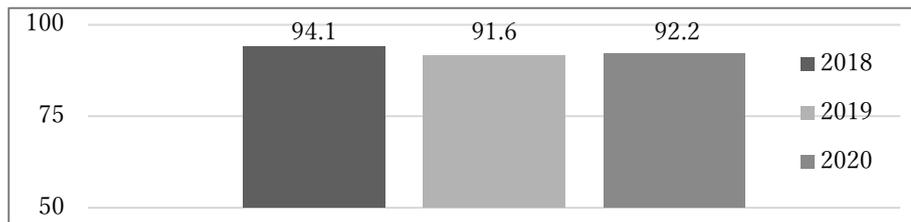


## ④ グレースコートあじさい（サービス付き高齢者向け住宅）

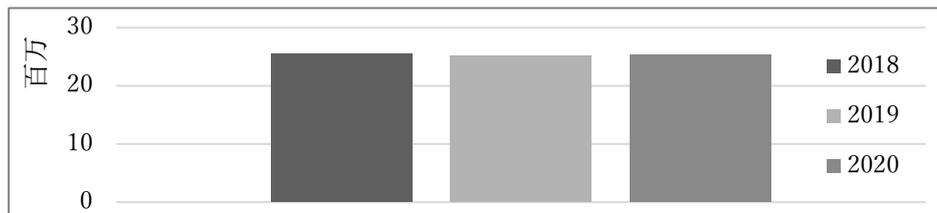
住まいのあり方が多様化する中で、利用者の一時的な住まいとして活用されている現状であります。市内の施設数の増加により、利用者の確保が厳しくなっている状況が続いております。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響にて、外出や家族の来館・面会などにも制限がかかり、利用者及び家族にも支障をきたしております。新たな生活様式の周知とスタッフの感染対策を講じ、IoT 化を推進し、業務プロセスの効率化を図り、介護職員等の負担の軽減に努めてまいりました。

コロナ禍における新規利用者の確保方法について、ホームページ等を活用した情報提供も課題となっております。

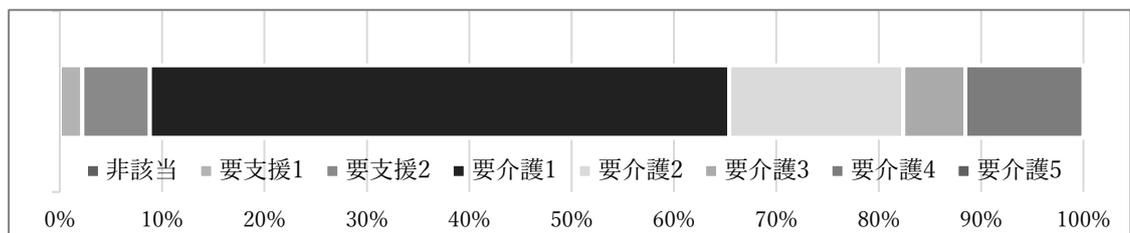
● 稼働率



● 収入



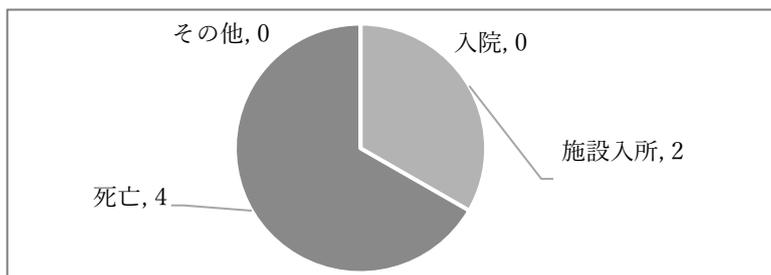
● 要介護認定区分別 利用者延数割合



● 要介護認定区分別 新規利用者数



● 退居理由

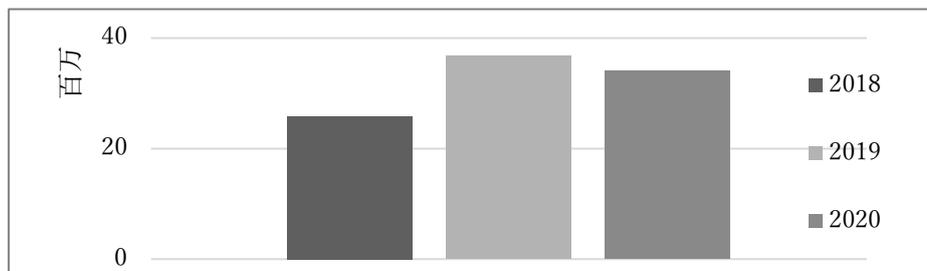


⑤ キッズあじさい (企業主導型保育事業)

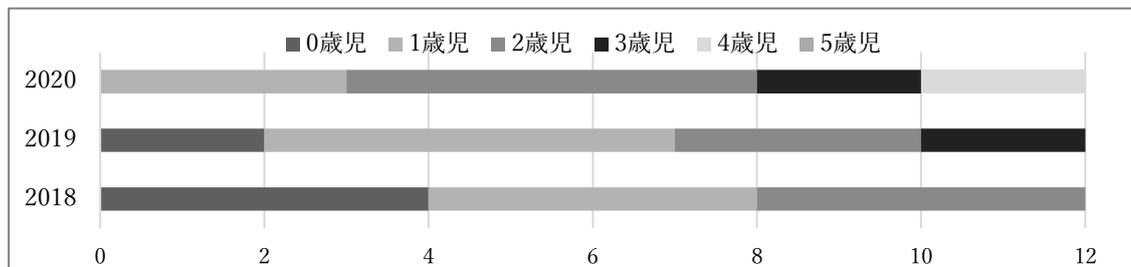
新型コロナウイルス感染症の影響にて、高齢者との交流に制限がかかることになりました。感染対策として、高齢者とのオンラインや動画配信の交流、写真のネット販売、ホームページ、ブログ等を活用した保護者への情報提供にも努めてまいりました。リトミックなどの中止や子どもたちへのマスク着用や定期的な消毒や換気などの感染対策も保育士の負担となった1年となりました。結果、子どもたちは、風邪等の症状も例年より少なく健康管理に努めることができました。

感染対策だけでなく、日頃の保育の在り方についても保護者と連携を取りながら進め、子育てもサポートする保育の在り方を考える機会となった1年となりました。

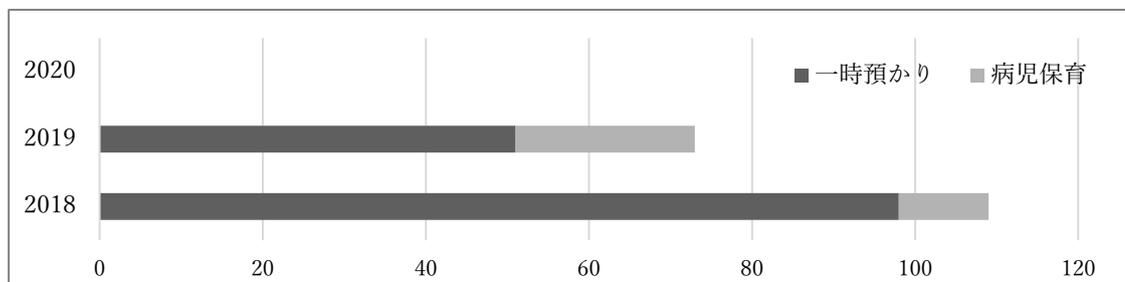
● 収入



● 定期・不定期延児童内訳

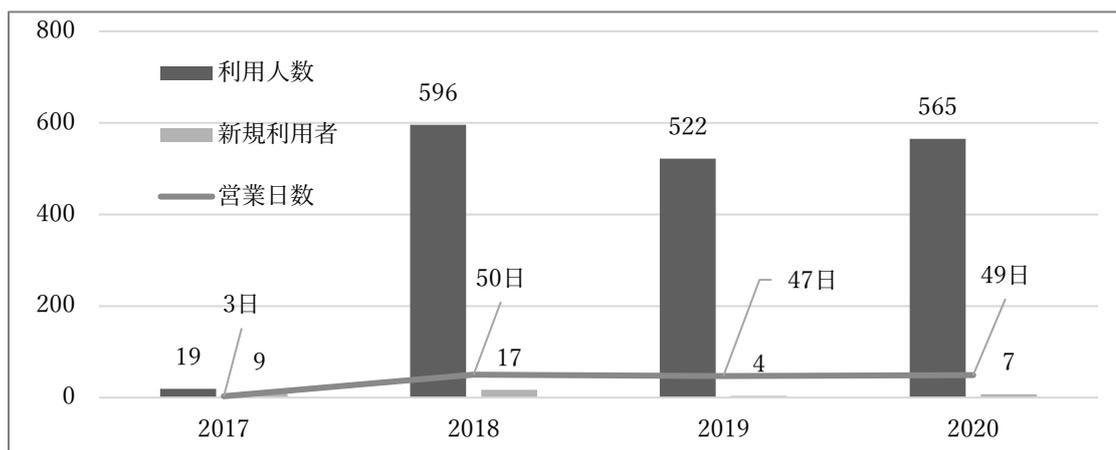


● 一時預かり・病児保育



3. その他法人全体にかかわる事業

- ① ヘルスケアセンター：介護保険対象者以外の健康増進のためのサービス提供に努めてまいりました。

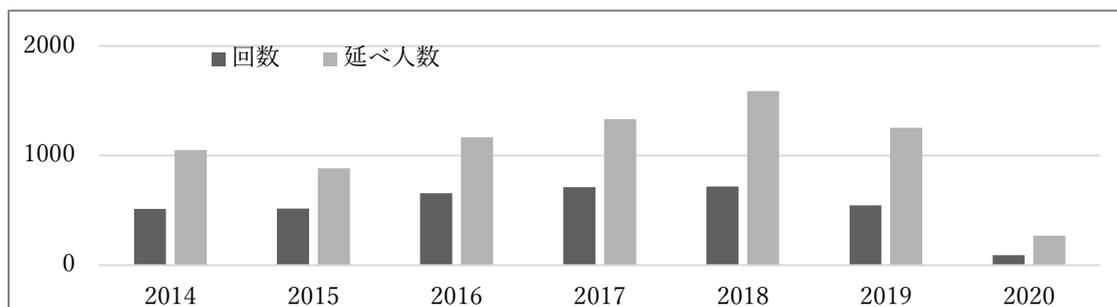


- ② あじさい納涼夏祭り：コロナの影響で縮小（事業所単位で開催）  
 ③ 喫茶うしまど：月2回特別養護老人ホーム3Fラウンジでの喫茶店を開店  
 ④ カフェあじさい：グレースケア1Fでの地域住民とのカフェはコロナの影響で中止  
 ⑤ サロン活動・施設見学：地域の公民館等にて住民に向けた研修会もコロナで縮小

日時	地区・サロン名	内容	参加者数
R2.11.17	上区五月会	レクリエーション	9名

- ⑥ あじさいホールの活用：コロナの影響でヘルスケア以外はほぼ中止。

⑦ ボランティアの受入：コロナの影響にてほぼ受入中止等により活動数は減少となった。



⑧ 主な会議

新型コロナウイルス感染症対策として、主な会議は ZOOM によるオンライン会議で開催することとなりました。他会議等についても、ZOOM や三密を避けた会議等で対応してまいりました。

名称	頻度	主な内容	参加者
運営会議	週 1 回	運営及び人事等	理事長・施設長・事務部長・各部長補佐
連絡会議	週 1 回	週間行事確認 運営会議・他会議内容報告等	各事業所所より 1 名以上
施設部会議／ 在宅部会議	月 1 回 月 1 回	新規利用者報告 身体拘束適正化委員会・ICT 委員会 リスクマネジメント委員会（事故苦情） OJT 委員会・業務改善・環境整備 広報・腰痛機器・サービスメニュー マニュアル確認・ボランティア他	施設部会議（特養職員） 在宅部会議（特養以外職員）
栄養部会議	月 1 回	設備管理、食事メモ、業務調整他	施設長・管理栄養士・調理員
相談員会議	月 1 回	リスクマネジメント委員会 OJT 委員会・広報・サービスメニュー マニュアル確認・防災管理 就職セミナー・ボランティア 福利厚生他	施設長・生活相談員
介護職員会議	月 1 回	事故苦情報告・OJT 委員会 サービスメニュー・マニュアル確認 EPA 介護福祉士候補生等受入調整他	施設長・介護職員
医療職員会議	月 1 回	感染対策委員会 安全委員会（喀痰吸引） 衛生管理委員会（労働安全衛生） 給食委員会・口腔ケア・リハビリ OJT 委員会他	施設長・看護師・管理栄養士・理学療法士・作業療法士・歯科衛生士
※その他事業所別会議、カンファレンス等も定期・随時開催			

## ⑨ 研修

新型コロナウイルス感染症の影響にて外部研修の多くは中止となり、年度途中よりオンライン研修等が増え、オンラインでの参加を基本に取り組んでまいりました。内部研修につきましても、三密を避けるため、法人全体研修等多くのスタッフが集うものは中止または書面や動画視聴への研修に切り替え、事業所単位での内部研修は書面での研修にて対応してまいりました。

■ 外部研修 計 33件 50名参加

■ 内部研修

新人研修 採用時施設長より説明（オリエンテーション）

自主研修 年1回 「専門職として、組織人として目標と振り返り」

事業所研修（全事業所）

4月	防災教育～非常災害時等	資料作成：相談部
5月	認知症～認知症ケア・BPSDについて	資料作成：介護部
6月	食中毒について	資料作成：介護部
7月	KYT～危険予知訓練	資料作成：看護部
8月	上半期振り返り	
9月	権利擁護～高齢者虐待と身体拘束	資料作成：相談部
10月	防災教育～非常災害時	資料作成：相談部
11月	結核・感染予防～感染症について	資料作成：看護部
12月	KYT～危険予知訓練	資料作成：介護部
1月	看取り～ターミナルケア・終末期のケア	資料作成：看護部
2月	接遇	資料作成：三石施設長
3月	振返	

全体研修

4月	法令遵守・事業計画等 講師：三石施設長	
9月	新型コロナウイルス感染対策動画配信 講師：三石施設長	
8月	喀痰吸引研修 手技確認等 講師：出井部長補佐他看護職員	22名
2月	喀痰吸引研修 新型コロナウイルスの影響で確認テストに置換	-